

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191300033		
法人名	有限会社もろがみ		
事業所名	グループホーム両神		
所在地	岐阜県加茂郡白川町河岐711		
自己評価作成日	平成30年6月30日	評価結果市町村受理日	平成30年9月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/21/index_ehm?action=kouhyou_detail_2016_022_kami=trus&livvosvoCd=2191300033-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成30年8月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>認知症のあるお年寄りが毎日の生活を通して出来る限り安楽に過ごして頂けるように支援する。また、皆さんが安心して穏やかに暮らせることを大切に、これを目的とする。運営方針としては「ゆっくり」「いっしょに」「楽しみながら」を掲げている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、昨年度、過去5年間の外部評価実施状況及びその他必要要件を満たした事から、実施回数に関する適用申請を行い、外部評価実施の軽減措置を受けている。現在、利用者の8名が90歳代であり、それに伴う課題も多く、職員の強固なチームワークで克服しているが、職員も高齢化しており、負担軽減のため、自動掃除機で清掃を行い、利用者の入浴はシャワーチェアを利用している。また、利用者の身体機能の衰えも顕著である為、全員「粥食」に変更し、血液検査を定期化し、健康維持につなげている。今年度は、初めて看取りを行い、家族や地域社会の要請に応じるため、医療と介護の連携を整えている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有して実践に繋げて支援に困った時は利用者側に立って考えることも統一している。	理念は、その意義を含めて職員間で共有し、常に利用者側に立って毎日の支援を振り返っている。利用者が安心して、「ゆっくり」「一緒に」「楽しみながら」生活が送れるように実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域住民との積極的な交流、日常的な交流は行っていない。しかしながら地域から孤立しているというわけではない。	職員の8名が、同じ地域の住民であることから、近隣とは、親密なつきあいがあり、野菜の差し入れは日常である。また、隣には町役場、少し離れて市民会館や消防署があり、災害時には協力が得られる体制がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献らしい事は行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	話し合いの中で支援に有効な情報もあり、運営やサービス向上に生かしている。	運営推進会議では、事業所の現状報告と課題を取り上げ、参加者から理解と助言を得ている。利用者の重度化や長期入居に伴う利用料について、また、職員の負担軽減対策等も話し合っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村との連携は出来ている。	福祉課の担当者には、運営推進会議に毎回出席してもらい、各種申請手続きや終末期対応、災害対策などで助言を得ている。その結果、筒に入れて持ち出せる「救急医療情報キット」作成が実現している。また、介護保険制度の改正点についても説明を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしない支援は行っている。危険な状況は早急に対策を立てる。	身体拘束と虐待を含め、「しないケア」を実践している。危険な状況を回避するため、ケアの仕方を工夫したり、生活環境を整えるなど、試行錯誤しながら支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待とは何か？事例を上げて話し合っている。		

岐阜県 グループホーム両神

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	多職種間との交流を通じて情報収集は行っている。現在は必要な状況ではない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	長期入所に伴い家族から経済的な相談があるときは町の福祉課と協力して対処している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に交代で家族に参加を求めている。70%の家族参加ができています。	本人・家族の意見や要望を、面会時や運営推進会議で聴いている。毎月、家族宛てに、利用者の様子を細かく記した便りを送り、家族からも好評を得ている。特別養護老人ホームへの転居希望には、前向きに支援をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年4回の会議(食事会を含む)カンファレンスにおいて話し合いを行っている。	管理者は、職員の意見や提案は、その都度話し合い、改善できることは速やかに実行している。カンファレンスは年に4回行い、職員同士の連帯感を強め、働きがいのある職場づくりに反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績は報酬に反映している。可能な限り公平に行っていると認識している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員育成の重要性は認識している。短期間ではあるがトレーニングを進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流する機会は作っていないが、個々で勉強会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	約3ヶ月程の目標を立て安心を確保する為の対応は出来ている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族からの情報収集は入念に行っている。入所後も家族からの情報は重要である。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	段階的な支援の工夫を行い、変化に対応する努力は重要と考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員の入れ替わりが殆ど無いので関係づくりは良好に行われている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	特に面会時は近況報告を密に交流を深めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	積極的な取り組みは行っていない。	家族の面会は時々あるが、重度化と車椅子対応者が多く、馴染みの場へ出かけるのは困難である。定期的に訪れる医療関係者や理髪師とは、新たな馴染みの関係が出来ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者と職員が交流できる場と時間を多く持つよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	情報を共有するように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向は大切に考えている。本人の側に立って家族も巻き込んで話し合う事が重要と考えている。	一人ひとりの個性を把握し、ゆったりと笑顔を引き出すように努めている。意思の疎通が困難であったり、疾患から表出する問題行動も、穏やかに受け止め、日々安心して暮らせるように対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報収集は入所が長期化1しても大切である。又、家族の知らない事実もあり、話し合いをととても大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ全員が個々の変化を推察観察することを重要と考え努力している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の高齢化と認知症の進行によって介護計画は常に見直しを行っている。	介護計画作りに際し、家族の意向や職員の意見を検討し、個別のニーズを踏まえて作成している。また、主治医、歯科医の指導の下、清潔を保持しながら、食欲を満たし、気持ちよく穏やかな暮らしができるよう、計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや対応の工夫を個別記録に記入し変化による対応を含めて情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	危険回避を最重要課題とし柔軟かつ臨機応変に支援を行えるよう努めている。		

岐阜県 グループホーム両神

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源は把握しているが十分な活用は出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	地域の医院からの往診が月に3回受けられ急変時も往診をお願いできる関係作りが出来ていることで安心している。	入居時に、かかりつけ医について説明し、本人・家族の同意の下、協力医に変更している。協力医の定期往診や歯科医、歯科衛生士の訪問診療もある。緊急時には、協力医と連携をとり適切な医療を受けられるよう支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設長、看護職、介護職は常に情報を共有し実践に役立てている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院の地域連携課との関係づくりを行って早期退院に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の有り方については家族と十分に話し合っており方針を共有することになっている。	ホームでは、常時医療行為のない暮らしの支援を目指している。終末期には、病院や他施設への移転で対応していたが、今回、初めて、家族の要請により、家族と医師、関係者等で方針を共有し、看取りを行っている。	終末期の支援では、段階的な話し合いを行い、看取り介護に関する指針などで、家族と交わす同意書を整えることが望ましい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時には速やかに報告し対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	救急医療キットを作成している。	災害訓練は、様々な災害を想定して実施している。直近の大雨災害では、避難者や車の受け入れを行っている。また、前回の課題でもあった利用者の「救急医療情報キット」を作成し、万が一の災害に備えている。備蓄も確保し、近隣住民との協力体制も築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は常に対応について話し合っている。 又、職員の経験が支援内容を高めている。	利用者一人ひとりの思いを汲み取りながら、信頼関係を築いている。声をかける時は、常に笑顔で、分かりやすい言葉を使うように心がけている。また、適切な対応が出来るか、倫理規定を掲示して常に意識し、全職員で共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりの違いを把握し対応を工夫している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則正しい日常生活とゆったりとした支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る限り希望に沿うようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の高齢化、身体的なレベル低下、認知症の進行等によって利用者と共には出来ない状況になっている。	利用者全員が、咀嚼、嚥下能力低下により、粥食に変更しているが、副菜やおやつを工夫し、健康管理につなげている。食事の内容に制限はあるものの、職員と一緒に食べることで楽しい時間を共有している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事内容についても工夫し水分補給は一年中気を使っている。(特に夜間の水分補給)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは全員行っている。必要に応じて歯科の往診も受けている。		

岐阜県 グループホーム両神

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄は全員介入し清潔を保っている。身体的な事情により2名はオムツ交換をしている。	個々の排泄パターンを把握し、自立に向けて支援を行っている。夜間は、ポータブルトイレ使用や、センサーで動きを察知し、トイレ誘導を行うなど、個々の状態に合わせて、失敗を減らせるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘については協力医と相談を密にし内服薬での調整をおこなっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を履行している。時間帯は決まっているがゆったりと入浴できる環境を作っている。	入浴は、重度の利用者も湯船に浸かれるよう取り組んでいる。嫌がる人には時間を変更したり、声かけを工夫している。今年度は、重度者対応のシャワーチェアを導入し、利用者の安全・安楽な入浴と職員の負担軽減につなげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	毎食後の休養は生活の中に取り入れている。利用者の高齢化により生活リズムも変化している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の支援は薬局長、看護師の指導の下職員間で徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の高齢化に伴い個別対応を重視しているがお楽しみの演芸は取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と共に外出することはあるが日常的には行っていない。	利用者の重度化により、外出の機会は少ない。前庭で外気浴をすることと、季節の花見は欠かさず行っている。家族には、希望があれば、リフト車を貸し出すことが出来る事を伝え、利用を勧めている。	

岐阜県 グループホーム両神

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持したり、使えるような支援は行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者本人の希望により電話をする支援は行うが積極的には行っていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の変化を知る為に草花を常に変えたり、置き物、インテリア等の工夫はしている。	要所に、季節の草花の鉢を置き、手作りの暖簾や共同作品、ぬいぐるみなどを飾っている。畳コーナーでは、洗濯物を畳むなど、生活感がある。皆で標語集を唱和したり、カラオケで昔の曲を唄ったりと、楽しみながら、居心地よく過ごせる空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の高齢化に伴い自室で休養する時間が多く成った。共有空間も利用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族にも依頼し好みの物を使用している。	居室には、使い慣れたものを自由に持ち込み、好みに配置している。ペットの写真や家族の写真を飾り、安心して過ごせる工夫をしている。転倒予防のため、ベッドセンサーを設置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な環境づくりは常に気を配っている。危険防止を一番に考えている。		